

人と自然が出会う場所づくり

～農園ガイドと共に見つける、もうひとりの自分～

南区農園ガイドの会

【活動目的】

人口約200万人を抱える大都市である札幌。その札幌10区の中でも広大な面積を誇る南区が私たちの活動エリアです。南区は今も昔も自然豊かな農村地域であり、小規模農家が果樹をはじめ、野菜や畜産など様々な農作物を生産しています。しかし、近年全国的な問題となっている農業従事者の高齢化や後継者不足、深刻な人口減少が私たちの南区を持続不可能なものへ変えようとしています。

このような状況下でも、その土地の人々は昔ながらの農業を営み、豊かな自然を守り続けています。私たちは農業者を中心に南区内に居住する多様な人々で結成した団体であり、農村部の魅力を都市部に住む多くの人へ伝え、訪れる人々に農業や地元食材を体験してもらい、持続可能な地域づくりを目的とした活動をしています。



砒山ふれあい果樹園のシンボルツリー

【活動内容】

(1) 農園ガイド

私たちの活動地域では観光農園が多く、訪れる人々は入園料を支払い、果物狩りや野菜の収穫体験を行っています。通常の体験では収穫して、食べて、満足したら帰るといふことしかできず、その土地の成り立ちや農業者とのふれあい、農作物や自然の魅力を伝える

ことは残念ながらできていませんでした。しかし、行政や地元住民からのサポートもあり、約3年の準備期間を経て地元の歴史や農作物、そして地域の魅力に詳しい「農園ガイド」を育成しました。ガイド付きの収穫体験という初の試みは、訪れる人々にも私たちにも多くの発見がありました。コロナ禍ということもあり、人々の移動が制限される中、札幌市内に住む方々に多く体験していただきました。都市部に住んでいると「土を踏む」という感覚さえも新鮮であり、旬の農作物や大自然に触れること、そして農園ガイドの地元ネタにも大変満足した様子でした。

農園ガイドである私たちにとって、地元の風景や農作物は日常のものごとであり、いざ魅力を再発見しようとしても、お金を払って体験するお客様にとって満足のいくものなのか半信半疑なこともありました。農村部には最新のファッションやグルメがあるわけでもなく、SNSで流行しているようなものもありません。それでも訪れる人々にとっては都市部の雑踏から距離を置き、「なにもない」ことが贅沢であり、大自然を目の前にして「自分はこのままでいいんだ」とつぶやく方もいました。このように、私たち農園ガイドと訪れる人々との交流を通して、農村部の魅力は新しく生まれてくるのだと活動の中で感じています。



野菜の目利きを教える八剣山果樹園の園主、桜井学さん

(2) 地域勉強会

農園ガイドの活動において、豊かな自然を持続可能なものにしていくことは大切なことであり、ときには自然の猛威にも立ち向かわなければなりません。2021～2022年の冬は稀^{まれ}にみる豪雪に見舞われ、甚大な農業被害が出ました。果樹園の木々は雪の重みに耐えられずに折れ、近年数が増え続けているエゾシカによる食害も重なり、危機的状況となりました。

このままでは農園ガイドのみならず、地元農家存続の危機ということもあり、地元住民や行政、まちづくりセンターや猟友会、エゾシカの生態に詳しい専門家が参加する勉強会を開催しました。様々な関係者が集まり、農村部の持続可能性のために何ができるのかを話し合い、具体的な食害の対処法などを学ぶきっかけとなりました。



エゾシカ食害を考える勉強会

(3) 北海道スタイルBBQ

地元の魅力あふれる食材をもっと美味^{おい}しく、自然の中で味わってもらうにはどうしたらいいのかと試行錯誤している中、日本BBQ協会と共催でBBQイベントを開催することとなりました。2日間にわたるイベントではBBQ初級検定という検定試験を行い、その翌日には地元や北海道食材を使った「北海道スタイルBBQパーティー」を行いました。BBQ初級検定は札幌初開催であり、座学でBBQ文化や食材の衛生管理、食材の美味しさを引き立てる焼き方を学び、実務演習では日本BBQ協会の会長から炭の扱い方や食材の焼き方を教わりました。その後は筆記試験もある本格的

な検定試験であり、BBQイベントを開催するための基礎知識を得ることができます。検定試験に参加したのは私たち農園ガイドのみならず、行政の職員や地域づくりに興味のある方々であったため、農村部の魅力をどのように発信していくかの意見交換もすることができました。

翌日に行われた北海道スタイルBBQパーティーでは、北海道内から多くの方々にお越しいただき、地元野菜やエゾシカ肉、アイヌ民族の伝統料理や本格BBQなど旬の食材と豊かな自然を堪能できるものとなりました。



BBQ初級検定の参加者

【活動で得たことと今後の展望】

農村部は「自然以外なにもない場所」と言われ、住民も減り続けていき、このままでは荒廃していきます。都市部に暮らす人々は、次々とあふれ出てくる新しいものや洪水のような情報の波に流され、日々忙しく働き、SNSを見ては他者と比較して一喜一憂しています。私たちの活動ではそのような人々との多くの出会いがあり、貴重な体験を共有してきました。農園ガイドと共に自然に触れ、散策し、食を楽しむ体験の中で、訪れた人々はそれぞれ自身の感性を再発見し、「なにもない自然がこんなにも素敵だと思える自分がいた」という声もありました。それはまさに「自分の中にあるもうひとりの自分」であると思います。目まぐるしく変わりゆく時代、人間としての感性が失われていく中、なにもない自然に身を置き、地元の農園ガイドとの交流をきっかけに、また来てもらえるような地域づくりをこれからも行っていきたいと考えています。